様式３－１

令和8年9月11日

令和8年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（ (中間)・最終 ）

明徳中学校区　校番20　学校名　呉市立明徳中学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（今年度）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	授業改善の推進	(貫) 主体的な学びを実現する授業づくり	指標①授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいると考える生徒の割合が88.9%であり，目標値を達成していない。生徒が自ら考え解決できるような課題を設定する必要がある。 指標②学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直して，次の学習に繋げることができていると考える生徒の割合が81.5%であり，目標値を達成していない。その都度，わからなかったことを見直し振り返らせる必要がある。	生徒の主体的な学びの更なる充実に向けた「めいとく・トライ」の取組を推進する。また，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。 生徒の実態に応じて，「特別支援教育の視点」と「生徒指導の実施上の視点」に重点を置いた授業改善を引き続き行っていく。
★★	自己有用感の育成と防災教育の深化	(貫) 個を大切にした支援の充実 (貫) いじめを許さない学校環境づくり (貫) 自分の命は自分で守る力の育成	①自分にはよいところがあると思っている生徒の割合70.4%，各学年で2，3人ずつ否定的な回答があった。昨年度より6ポイント下がっている。日々の学校生活（特に勉強面）において，他者からの肯定的な評価が不足していると考えられる。 ②いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている生徒の割合92.6%，2，3学年に1人ずつ否定的な回答があった。いじめについての共通の認識ができていない。 ③地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合70.4%，2，3学年に2，3人ずつ否定的な回答があった。地域や社会の一員として考える場面が不足していると考えられる。 ④理解が不十分であった生徒には，個別に指導し，避難について理解している生徒の割合100%を達成した。いざというときに行動できない生徒が1人もいないよう引き続き丁寧に指導していく必要がある。	①教職員が日常的に「できた」と感じる場面や，他者を肯定的に評価する場面をつくることで自己肯定感を高めていく。 ②いじめ撲滅の取組を引き続き行い，いじめは絶対に許さないという風土を作り上げる。欠席が多い生徒にも個別に伝えていく。 ③総合的な学習の時間や学校行事において，地域のことを考えたり，自分の行動が地域のためになることを実感させたりする場面を設定する。 ④全体指導と個別指導を丁寧に積み重ねていく。避難場所を再確認させる機会を意図的に設けるなど，地域の災害リスクを踏まえた防災意識を高める取組を促進する。
★	安心・安全な教育環境の整備	(貫) 教職員による不祥事の根絶 (貫) 働き方改革の推進	指標①日々の業務の中で充実感を得られていると感じる教職員の割合は90%であり，目標値を達成している。今年度業務の適正化と効率化に重点的に取り組んでいるが，職員の一部が負担感を感じている。 指標②時間外在校等時間が月45時間以下の教職員の割合（3ヶ月平均）は88.6%であり，目標値を大きく上回った。今年度，学級数増加による職員数増の影響や業務の効率化により，時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の割合は前年度より減少している。	100%の教職員が「教職員で業務の手助けなど，互いに頼みやすい雰囲気があると感じている」といった「強み」を生かして組織力を高めるとともに風通しの良い職場づくりと「働きがい」のある職場づくりを基盤とする。 引き続き，業務の適正化と効率化を図るとともに，当事者意識を高める服務研修を実施し，不祥事の防止と働き方改革の推進により，安心・安全な教育環境の整備を進めていく。